

12課

6月20日

難しい箇所への扱い方



安息日午後

6月13日

今週のテーマ

暗唱聖句

また、わたしたちの主の寛容は救のためであると思いなさい。このことは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、彼に与えられた知恵によって、あなたがたに書きおくとおりである。彼は、どの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。(Ⅱペテロ3:15、16、口語訳)

また、わたしたちの主の忍耐深さを、救いと考えなさい。それは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、神から授かった知恵に基づいて、あなたがたに書き送ったことでもあります。彼は、どの手紙の中でもこのことについて述べています。その手紙には難しく理解しにくい箇所があって、無学な人や心の定まらない人は、それを聖書のほかの部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています。(Ⅱペテロ3:15、16、新共同訳)

今週の聖句

Ⅱテモテ2:10～15、歴代誌上29:17、ヤコブ4:6～10、ガラテヤ6:9、使徒言行録17:11

ペトロは、使徒パウロの手紙について説明しているときに、その手紙の中には(また、聖書のほかの部分にも)「難しく理解しにくい箇所」(Ⅱペテ3:16)があると書いています。「無学な人や心の定まらない人」(同)は、それらの言葉を曲解し、ゆがめ、自分の滅びを招いています。ペトロは、あらゆる箇所が理解しにくいと言っているのではなく、そういう箇所もいくらかあると言っているにすぎません。

それゆえ、私たちは今週、難しい聖句そのものに目を向けるのではなく、このような難しさの理由は何か、また神の言葉の真理を誠実に追及する者として、私たちはいかにそれらと取り組むことができるのかということに目を向けます。結局、これらの難しい言葉のいくつかは、天のこちら側では解決しないかもしれません。その一方で、聖書の大部分の聖句はまったく難しくありませんし、わずかな難しい聖句によって、神の言葉全体の信びよう性や権威に対する私たちの信頼を弱める必要はありません。

問1 IIテモテ2:10~15を読んでください。パウロはテモテに、「真理の言葉
を正しく扱(う)」(15節、英訳聖書)ように努めなさい、と勧告して
います。彼は私たち全員に、どんな重要なメッセージを伝えていま
すか。

聖書を学ぶ思慮深く正直な人は、聖書の中に理解しにくい箇所があるという
事実を否定しないでしょう。私たちはその状況に困惑すべきではありません。
むしろ、ある意味において、そのような難しさは当然のことです。詰まるところ、
私たちは不完全で有限な存在であり、だれ1人として、神の事柄は言うまでも
なく、あらゆる学問分野の幅広い知識を持っていないのですから……。それゆえ、
無知で有限な人間が聖書の無限の神の知恵を理解しようとするとき、何らかの
難しさがあるはずなのです。しかし、聖書の教えを理解する際のそのような難
しさは、聖書が支持することが本当でないことを証明するものでは決してあり
ません。

神の啓示や靈感による聖書の教えをはねつける人たちは、そういった難しい
箇所は矛盾や間違いだとしばしば断言します。彼らにとって聖書は、多かれ少
なかれ人間の本にすぎないので、彼らは、欠陥や間違いが聖書に含まれている
はずだと信じているのです。そのような考え方を持っているので、神の靈感が
もたらす聖書の一貫性や信頼性を考慮に入れた説明を求めようと真剣に取り組
むことはほとんどありません。聖書の最初の数ページ、(例えば)天地創造の物
語を疑問視し始める人たちは、聖書の残りの部分の多くについても、じきに疑
うようになってしまうかもしれません。

聖書の矛盾の中には、写本家や翻訳者のささいな間違いが原因のものもある
かもしれません。エレン・G・ホワイトは次のように述べています。「ある人々
は真面目に、『写本を書いた人や、翻訳をした人に、何か誤りがあったかもしれ
ないとは考えられませんか』と、言います。その可能性はあります。そして、
心が狭くそのことにつまずく人は、靈感を受けた言葉の中にある神秘的な点に
ついてつまずきます。なぜなら、彼らの弱い心では、神の目的を見通すこと
ができないからです。彼らは、普通の人ならば神を認め、受け入れるような明
瞭な事実にもつまずいてしまいます。しかし、神の言葉は明らかで美しく、魂
を十分に養います。写本や翻訳のどんな問題も、あらわされた最も明らかな真
理を理解するのに困難を引き起こすようなことはなく、人をつまずかせる原因と
はなりません」(『セレクトレッド・メッセージ』4ページ)。

謙遜と服従の精神で聖書を読むことは、なぜ重要なのですか。

あなたはこれまでに、理解できない聖句、あるいは、ほかの聖句や一般的な現実と調和させるのが難しく感じる聖句に出くわしたことはありませんか。どんな時にも、あなたがこういった問題に直面したことがないというのは、考えられません。問題は、あなたがどのように対処したかです。あるいは、もっと重要な問題は、あなたがどのように対処するか、という点です。

問2 歴代誌上29：17、箴言2：7、1テモテ4：16を読んでください。これらの聖句は、聖書の難しい箇所をいかに扱うかという問題に適用できることを述べています。それはどのようなことですか。

正直である場合に限って、私たちは難しい箇所に適切に対処することができます。正直さは、難しい箇所を避けたり、覆い隠したりしないように、私たちを守るからです。正直さはまた、私たちが精密なテストに耐えられないいわべだけの答えを出すことを抑えます。神は正直さや誠実さを喜ばれます。それゆえ、私たちはあらゆる行動において、聖書研究においても、神の御品性を見倣うべきです。

正直な人は聖書の難しい箇所を扱う際に、文脈を無視した情報を提供したり、含みのある言葉で事実をゆがめたり、証拠を操作することで人々を誤解させたりしないように注意するでしょう。難しい箇所に対するあいまいな解決策や不十分な解決策を提供しようとするよりも、支持できる答えを待つほうがずっと得策です。聖書研究において正直であることの良い副作用は、それが信頼を築くことであり、信頼はあらゆる健全な人間関係の中心を成しています。信頼は説得力のない答えよりも、はるかに人々を納得させます。たぶん本当はそうでないのに、あなたが聖句に言わせたいことを言わせようとするよりも、その疑問にはどう答えてよいかわからないとか、その聖句を正しく説明できない、と答えたほうがよいのです。

慎重な人たちは、神の言葉の真理を知りたいと熱心に思っているので、限られた知識や説得力のない証拠に基づいて性急な結論を出さないように絶えず注意しています。慎重な人たちは、重要かもしれないどんな側面も詳細も見逃すまいと心に決めています。彼らは性急に考えず、神の言葉とあらゆる関連情報を綿密かつ入念に研究するのです。

十分に理解できない聖句、真理に対するあなたの理解と合致しないように思える聖句を、あなたはどうしますか。あるいは、どうすべきですか。

問3 ヤコブ4:6~10、歴代誌下7:14、ゼファニア3:12を読んでください。聖書の難しい箇所に取り組もうとすると、なぜ謙遜は重要なのですか。

多くの人が、自分たち以外の何かや誰かに依存しているのだという驚くべき自覚、謙虚な洞察を持つようになりました。彼らは、自分が万物の尺度ではないと気づいたのです。このような人たちは、正しくあるために彼らの自我よりも真理を大切にします。また、真理とは自ら作り出すものではなく、むしろ彼らが向き合うものであることを知っています。おそらくこのような人たちが理解する最大の真理は、彼らが実際には真理をほとんどわかっていないということでしょう。パウロが書いたように、「鏡におぼろに映ったものを見ている」(Iコリ13:12)ということ、彼らは知っているのです。

このように謙遜に考えることには、さまざまな恩恵があります。謙遜に探求する習慣は、知識におけるあらゆる成長の基礎です。なぜなら、それが素直な精神を自然に生む自由を作り出すからです。これは、謙遜な人が必然的にしばしば間違っていると、彼らがいつも考え方を変えようと、確信を持つことはないとか、そういう意味ではありません。単に、彼らが聖書の真理に対して従順であるという意味です。彼らは自分の知識の限界を知っているので、聡明な人、傲慢な人、誇り高い人にはできない形で、神の言葉に対する彼らの知識や理解を深めることができます。

「謙遜な、探求する心をもって、救いの条件を知るために、神のみ言葉に導きを求めて来る者たちはみな、聖書が述べていることを理解する。しかし、聖書が認めていない精神を聖書研究に持ち込む者たちは、聖書が与えていない精神を研究から引き出す。主は無関心な心にお語りにならない。故意に不遜で冒瀆的な者に対して、主は無駄にお教えにならない。しかし、誘惑者サタンは、自らの教えに従い、故意に神の聖なる律法を無視する者を教える。

私たちは心を謙遜にし、誠意と畏敬の念をもって命の言葉を研究する必要がある。謙遜で悔い改めた心だけが光を見るからである」(アドベンチスト・レビュー・アンド・サバス・ヘラルド、1907年8月22日号、英文)。

あなたは謙遜と確信の適正なバランスを、どのように取りますか。例えば、次のような非難に対して、あなたはどうか答えますか——「どうしてあなたがたセブンスデー・アドベンチストは、安息日に関してあなたがたが正しく、ほかのほぼすべての人は間違っていると確信を持てるのですか」。

問4 ガラテヤ6:9を読んでください。パウロはここで、私たちが他者にたゆまず善を行うことについて語っていますが、同じ態度は、難しい疑問を扱う際にも必要です。問題を解決するうえで、なぜ決意と忍耐は重要なのですか。

真の成功には、常に粘り強さが必要です。聖書の中の難しい箇所は、脳を働かせる機会を私たちに与え、また、私たちが解決策を求めることに伴う決意と粘り強さは、その問題が私たちにとってどれほど重要であるかを明らかにします。私たちが聖書の意味とメッセージについて、より多くのものを見いだそうとして聖書研究に費やした時間は、いつも有益に使われた時間です。たぶん答えを求めて聖書を熱心に調べるという経験は、たとえ長い時間をかけたとしても、(最終的に答えが見つかるとして、) 問題の解決策より大きな祝福になるでしょう。結局のところ、厄介な問題の解決策を見いだすとき、それは私たちにとって非常に貴重なものとなります。

あなたが難しい箇所をすぐに解決できないとしても、その事実は、問題が解決できないことの証明にはなりません。聖書の難しい箇所につつくと、ほんの少しだけそれについて考え、可能な解決策が見いだせないと、問題は解決されえないという結論にすぐに飛びつく人が大勢います。中には、聖書の信頼性をすっかり疑問視し始める人もいます。しかし私たちは、たとえ人間の限られた知恵(つまり無知)ではわからないとして、非常に簡単な解決策があるかもしれないということを忘れるべきではありません。代数の初心者難しい問題を解こうとして30分費やしてもできず、彼には解法が見つからなかったので、問題を解くことのできる方法はないと宣言したとして、私たちはその初心者をどう思うのでしょうか。私たちの聖書研究についても、同じことが言えます。

難しい箇所を理解しようとあなたが最大の努力をしても歯が立たないとき、しばらくそれを脇に置いて、その間に、神があなたにはっきり示されたことを実践してください。霊的洞察の中には、神が私たちに実行しなさいとすでに語っておられることを喜んで行ったあとに初めて得られるものがあります。ですから、粘り強く、忍耐強く、聖書を研究してください。何しろ、忍耐は終わりの時の信者たちの美德なのですから(黙14:12参照)……。

難しい聖書の箇所を熱心に、忍耐強く研究した人たちから、私たちは何を学ぶことができますか。真理の探究を諦めないように、私たちはほかの人をどのように励ますことができますか。聖書の難しい箇所に遭遇したとき、なぜ私たちは恐れるべきではないのですか。

問5 使徒言行録 17:11、8:35、15:15、16 を読んでください。使徒や初代教会の教会員たちは、難しい問題に直面したときにどうしましたか。なぜ聖書は、聖書の解釈にとって、今もなお最高の情報源なのか。

聖書の難しい箇所の最上の解決策は、今もなお聖書そのものの中に見いだされます。聖書の問題に対処する最善の方法は、一つの聖句だけをほかの箇所や聖書全体から切り離して扱うのではなく、聖書全体を踏まえて問題を研究することです。私たちは確かに、聖書を理解する助けとして聖書を用いなければなりません。聖書の中の大きな真理を掘り起こせるようになることは、私たちにできる最も重要なことの一つです。

もしあなたが聖書の一つの箇所を理解できないとしたら、同じ主題を扱っている聖書のほかの箇所から光を集めようとしてください。明瞭でないそのような箇所に光を投じる、聖書のもっと明瞭な言葉を見つけようといつも努めてください。また、理解しにくい箇所を聖書の明瞭な箇所に当てはめることによって、その明瞭な箇所をわかりにくくしないことも非常に重要です。聖書以外の資料や哲学や科学で聖書の意味を説明しようとする代わりに、私たちは聖書の言葉それ自体がその意味を明らかにするようにすべきです。

私たちはひざまずいて、新しい観点から難しい箇所を文字どおりに見る、と言われてきました。なぜなら、祈ることで、私たちは、聖書を解釈し理解するうえで神の助けを必要としていることを示すからです。祈ることで、私たちは、聖書記者たちに靈感を与えられた同じ聖霊を通して私たちの心に光を求めるのです。

祈ることで、私たちの動機が明らかにされ、私たちは神に、なぜ読んでいる箇所を理解したいのかを告げることができます。祈ることで、私たちは神に、御言葉を悟らせてください、神の真理に喜んで従い、それを実行する心を与えてくださいと求めます（これはとても重要です!）。私たちの祈りに応えて、神が聖霊によって私たちを導いてくださるとき、神は聖書に啓示されていることと矛盾することはなさいません。神は常に聖書と調和し、私たちに伝えるよう聖書記者たちに靈感をお与えになったことを裏づけ、高められるでしょう。

神の言葉をより良く理解し、それに従うことのできる考え方をあなたが身につけるうえで、祈りはいかに助けとなりますか。

参考資料として、『キリストへの道』の「疑いをどうするべきか」の章を読んでください。

聖書の中には、有限な人間が理解しがたいと感じる神秘、あまりにも深すぎて私たちが十分に説明できない神秘がたくさんあります。だから私たちは、謙遜な心を必要としており、自ら進んで祈りつつ聖書から学ばねばならないのです。聖書に忠実であることによって、聖句は書いてあるとおりのことを（たとえその意味が私たちには納得しがたくとも）私たちに語ります。聖書に忠実であることによって、私たちは聖句を尊重し、それを変えたり（本当に、ある人たちは聖句そのものを変えます）、その真の意味をごまかしたりしないのです。

「敬虔な心と祈りなしに神のみ言葉を開いたり、思いと愛情が神に向いていなかったり、または、神のみ心に調和しないでいると、心は疑惑の雲でおおわれ、聖書研究をしていながら懐疑心が強められるのです。敵が思想を支配して、正しくない解釈を暗示します。人が言葉にも行いにも神と一致しようと求めているなければ、いくら教育ある人でも、聖書の解釈を誤りやすくなりますから、彼らの解釈を頼りにするのは危険です。矛盾を見いだそうと思って聖書を探る人は、霊の目がまだ開かれていない人です。偏見を持って見るので、実はわかりやすく単純な事柄でも、何かと理屈を言って疑い、信じようとしません」（『キリストへの道』最新版 158 ページ）。

話し合いのための質問

- ① 私たちは今週、聖書に対する姿勢について学びましたが、その姿勢は、なぜ聖書を正しく理解するための基礎なのですか。聖書を良く理解するうえで、あなたが重要だと思う聖書に対する姿勢には、ほかにどんなものがありますか。
- ② 聖書の中に説明しがたく、理解しがたい箇所を見つけても、なぜ私たちは驚くべきではないのですか。詰まるところ、自然界にあるどれほど多くのものが、折に触れて理解しがたいことでしょうか。例えば、水（水です!）は、今もなお神秘であふれています。
- ③ アドベンチストとして、私たちはルカ 23：43 の疑問にどう答えることができますか。そこでは、イエスが犯罪人に、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と（たいていの翻訳では）おっしゃっています。どのように答えることが誠実でしょうか。例えば、ヨハネ 20：17、コヘレト 9：5、I コリント 15：16～20 は、ここで問題になっていることを理解するうえで、いかに助けとなりますか。